

西丹沢で約 40 年ぶりに生息を確認したヒメヒミズの報告

中西 のりこ・細山田 忠浩

Noriko Nakanishi and Tadahiro Hosoyamada: A Record of the Lesser Japanese Shrew-Mole *Dymecodon pilirostris* True, 1886 Captured in Western Part of Tanzawa Mountains for the First Time in Nearly 40 Years.

はじめに

神奈川県では、丹沢大山自然再生計画（神奈川県，2007）に基づき、平成 19 年より 5 ケ年計画で様々な自然再生事業を展開している。その中で、平成 21 年度に実施した事業において、丹沢大山では 1971 年の報告（小林・山口，1971）以来、約 40 年ぶりとなるヒメヒミズ *Dymecodon pilirostris* True, 1886 の生息を確認したので報告する。

なお、当該事業は希少種にかかる事業であり、現在も継続中の事業であるため、以下の本文中においては、場所が特定可能な情報は伏せさせて頂いた。ご理解とご了承を願いたい。

神奈川県におけるヒメヒミズ採集事例等

ヒメヒミズは、本州、四国、九州の山岳地に分布する日本固有種であり、比較的高標高域に生息しているが、下北など本州北部では低標高域の森林にも生息するとされる（阿部，2000）。

ヒメヒミズのタイプロカリティは「相模江の島」となっているが、分布状況を考慮すると誤りであると考えられている（今泉，1960）。神奈川県におけるヒメヒミズの正確な記録は 1965 年の丹沢山地の蛭ヶ岳山頂付近および犬越路からの報告のみである（小林・北原，1968）。その後、1968 年から 1970 年の 3 年間にわたり、ヒメヒミズの県下における分布状況を明らかにするため、丹沢山地に加え箱根火山の湯河原および仙石原において調査が実施され、新たに西丹沢の檜洞丸において生息が確認された（小林・山口，1971）。

しかし、これ以降 1973 年から 1974 年に実施した神奈川県内の広範囲（国立公園・国定公園及び県立自然公園地域を除く）における調査（今泉ほか，1980），1997 年から 2002 年に実施した丹沢地域での集中調査（山口，2003），第 7 回自然環境保全基礎調査として 2005 年に丹沢地域で実施した生物多様性調査（環境省，2006），丹沢大山総合調査の一環として 2005 年に実施した檜洞丸から犬越路に

かけてのヒメヒミズ生息確認調査（中山・若代，2007）のいずれにおいてもヒメヒミズの生息は確認されなかった。

神奈川県レッドデータにおいては 1995 年には健在種カテゴリーの希少種ランクに位置付けられた（中村，1995）が、その後 10 年以上にわたって生息の報告がないことから、2006 年に絶滅危惧 I 類にランクを変更された（広谷，2006）。

2009 年の確認状況

今回ヒメヒミズを確認した場所は、足柄上郡山北町中川地内の沢上流域に設置された治山えん堤周辺である（図 1）。当該箇所には、神奈川県が取り組む自然再生事業の一環として、平成 19 年に両生類の移動経路創出を目的とした「じゃかご」を実験的に設置している。現在は、効果検証のためのモニタリング事業を継続実施中である。

その中で、平成 21 年 12 月 16 日に「じゃかご」周辺に設置したピットフォールのひとつに落下しているヒミズ類を確認した。今回の事業では、9 月に別のピットフォールでヒミズを確認している。しかし 12 月の個体は、ヒミズ類として尾が長いことから（図 2a, b），ヒメヒミズである可能性が考えられたため、個体を持ち帰り、外部計測（表 1）および上顎の第 1 切歯の形態を確認した。



図 1. 位置図.

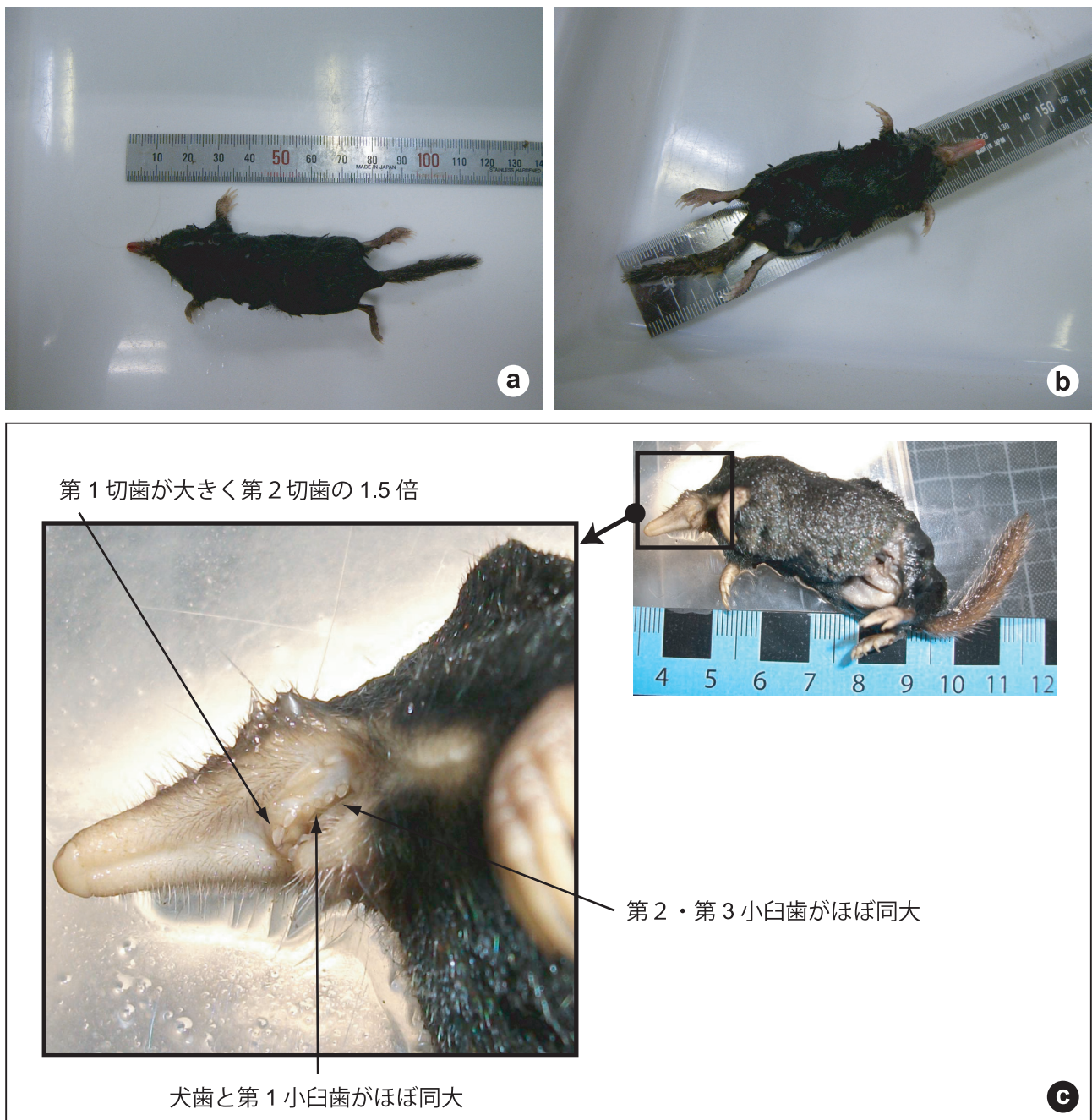


図2. ヒメヒミズ *Dymecodon pilirostris* True, 1886 の写真. a: 背面; b: 腹面; c: 顎・歯部.

表1. ヒメヒミズ *Dymecodon pilirostris* True, 1886
の計測データ

種 名:	ヒメヒミズ <i>Dymecodon pilirostris</i> True, 1886
捕獲日:	2009年12月16日
捕獲地:	神奈川県足柄上郡山北町中川地内
標 高:	約900m
調査員:	細山田 忠浩・永野 治
全 長:	116.0 mm
頭胴長:	79.0 mm
尾 長:	37.0 mm
尾 率:	46.8 %
後足長:	13.0 mm



図3. ヒメヒミズ *Dymecodon pilirostris* True, 1886 確認地域周辺の環境. a:両生類の移動経路創出のため実験的に設置した「じゃかご」の設置状況; b:「じゃかご」周辺に設置したピットフォールの設置状況; c: ヒメヒミズを確認した周辺の状況; d: 治山えん堤より上流は樹冠が形成されている; e: 沢岸から尾根付近までれき岩が連続する斜面; f: 林床にスズタケが優占する斜面.

その結果、尾率は 46.8%，上顎第 1 切歯の先端が平らでへら状であること（阿部，2000），第 1 切歯が大きく第 2 切歯の 1.5 倍であること，犬歯と第 1 小臼歯がほぼ同大であること，第 2・第 3 小臼歯がほぼ同じ大きさであることから（図 2c）ヒメヒミズと同定した。この個体は液浸標本とし，神奈川県立生命の星・地球博物館へ収蔵した（標本番号：KPM-NF1004413）。

確認地域周辺の環境

今回ヒメヒミズを確認した場所は，両岸が急峻な沢上流域の治山えん堤周辺である。ヒメヒミズは，両生類の移動経路創出を目的に，河床から側壁を越えて山地斜面につながるよう連続設置された「じゃかご」（図 3a）の，最上端際に設置したピットフォールで発見された（図 3b）。「じゃかご」には現地採石による 30 cm 内外の石が中詰めされている（図 3c）。

一方ヒミズは，ヒメヒミズを確認したピットフォールから直線距離にして約 7 m 上流側の側壁上段部で，山地斜面に直接連続する土壌上に設置したピットフォールで発見された。

当該治山えん堤より上流域は，フサザクラ，カエデ類，ブナ，ウラジロモミ等により樹冠が形成されている。林床は全体的に土壌が薄く，尾根付近から沢岸までれき岩が連続している。一方で林床にスズタケが優占し，土壌が堆積して溪畔林を形成している所もある（図 3d, e, f）。全体としては，狭い流域に多様な環境がパッチ状に分布している。

当該治山えん堤より下流域は，大規模な治山えん堤が連続している。河道は急に広くなり，岩塊・れき質土により形成され，流れは通常伏流している。斜面にはウツギ等のかん木類が単木でみられるのみであり，樹冠は形成されていない。

おわりに

この度の報告が今後のヒメヒミズ生息地確認調査の一助となり，丹沢大山における生息地域の把握，地域個体群の生態解明，生息地域の保護・保全に繋がれば幸いである。

謝 辞

神奈川県立生命の星・地球博物館の広谷浩子氏には同定についてご協力いただいた。同じく山口佳秀氏には 1967

年当時のお話を聞かせていただいた。また，永野 治 氏には現地調査，標本作製などについてご協力いただいた。この場を借りて御礼申し上げる。

引用文献

- 阿部 永，2000. 日本産哺乳類頭骨図説．279pp. 北海道大学図書刊行会，札幌．
- 広谷浩子，2006. 哺乳類．高桑正敏・勝山輝男・木場英久 編，神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006, pp.225-232. 神奈川県立生命の星・地球博物館，小田原．
- 今泉吉典，1960. 原色日本産哺乳類図鑑．196pp. 保育社，大阪．
- 今泉吉典・小林峯生・吉行瑞子・山口佳秀，1980. 神奈川県の小哺乳類相について．神奈川県立博物館研究報告，(12): 53-68
- 神奈川県，2007. 丹沢大山自然再生計画～人も自然もいきいきとした丹沢大山をめざして～．81pp. 神奈川県環境農政部緑生課，横浜．
- 環境省，2006. 第 7 回自然環境保全基礎調査 生物多様性調査 種の多様性調査（神奈川県）報告書＋資料編．109pp+38pp. 環境省自然環境局生物多様性センター，富士吉田（山梨）．
- 小林峯生・北原正宜，1968. ヒメヒミズの新産地．哺乳動物学雑誌，4 (2): 60-61.
- 小林峯生・山口佳秀，1971. 丹沢山塊におけるヒメヒミズ *Dymecodon piriostri* TRUE の分布と小哺乳類相について．神奈川県立博物館調査研究報告書 自然科学，(4): 1-23.
- 中村一恵，1995. 哺乳類．神奈川県レッドデータ生物調査団 編，神奈川県立博物館研究報告 自然科学 第 7 号 神奈川県レッドデータ生物調査報告書，pp.157-170. 神奈川県立生命の星・地球博物館，小田原．
- 中山 文・若代彰路，2007. 檜洞丸付近におけるヒメヒミズについて．丹沢大山総合調査団 編，丹沢大山総合調査学術報告書，pp.177-179. 財団法人平岡環境科学研究所，相模原．
- 山口喜盛，2003. 丹沢山地における小哺乳類の生息状況．神奈川自然誌資料，(24): 77-84.

中西のりこ：

神奈川県自然環境保全センター自然保護公園部自然公園課
細山田忠浩：株式会社豊産業